



## 第8回 がん検診

空が高くすっかり秋を感じる季節になりました。秋は各市町村でがん検診を行なっている時期です。そこで、今回は「がん検診」についてお話したいと思います。現在、がんは日本の死亡原因の1位になっており、がんで亡くなる人が国内で年間35万人を超え、年々増加しています。

一部のがんでは早期発見・早期治療が可能となり、がんで亡くなる方を減らすことができるようになりました。

### がん検診の目的

がん検診の目的は、がんを**早期に発見**するとともに、**早期に治療**を行うことで**がんによって亡くなる方を減らすこと**です。

### がん検診の項目の条件となるもの

最終的な目標の「**がんで亡くなる方を減少させる**」には、早期発見できる方法だけでなく様々な条件が必要なため、以下の条件を満たしたものをがん検診の項目としています。

- ①がんになる人が多く、死亡の重大な原因であること。
- ②がん検診によりそのがんによる死亡数が確実に減少すること。
- ③がん検診を行う検査方法があること。
- ④検査が安全であること。
- ⑤検査の精度がある程度高いこと
- ⑥発見されたがんの治療法があること。
- ⑦①～⑥を見て検診を受けるメリットがデメリットを上回ること。



## がん検診のメリット・デメリットは？

### メリット

- ・ 早期発見により、そのがんで死亡する可能性を減少させることができます。
- ・ がんの症状がない健康な人を対象にしているため、発見されたがんは早期がんである可能性が高い。
- ・ 早期であれば治せる可能性が高く、治療による身体的負担や経済的負担も少なくてすみます。
- ・ がんを見つけるだけでなく、前がん病変（がんになる前の変化したもの）を見つけることができます。（大腸ポリープなど）
- ・ 「異常なし」という結果の場合はひとまず安心です。しかし、定期的な検診は必要です。

### デメリット

- ・ がん検診でがんが100%見つかるというわけではない。  
がんの発生した時点からある程度の大きさまで大きくなると発見できないため、見逃してしまうことがあります。
- ・ 検査によっては身体的負担が伴います。



## 各がん検診について

がん検診の流れは次のようになります。がん検診は毎年受けることにより、がんの早期発見につながりますので毎年（検診によっては2年に1回）受けるようにしましょう。

### がん検診の流れ

市町村の広報誌や個別通知などでどの検診の対象であるかを確認する。



検診がいつどこで（個別医療機関や集団検診）受けられるかを確認する。

※一定の年齢の方を対象に、健診の自己負担額が無料になる「無料クーポン」が送付されます。



受診の申し込みが必要かどうかを確認する。



受診

お住まいの市町村によって検診の対象年齢や自己負担額が異なりますので、必ずお住まいの市町村窓口にお問い合わせください。

## ○胃がん検診

### ◆胃X線検査



バリウムと発泡剤を飲み、胃の中の粘膜を観察する検査です。

胃がんを見つけるための検査ですが、胃潰瘍やポリープなども発見されます。検査当日は朝食が食べられないなど、検査を受ける際の注意事項がありますので検査を受ける際には注意してください。

## ○大腸がん検診

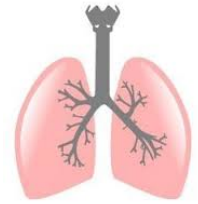
### ◆便潜血検査

がんやポリープなどがあると、大腸内に出血することがあります。この検査はその血液の有無を調べる検査です。検査で陽性になった場合、精密検査で出血の原因を調べます。

## ○肺がん検診

### ◆胸部X線検査と喀痰細胞診

肺全体のX線検査です。喀痰細胞診は主に喫煙者を対象に行います。喀痰を採取して、気管支等のがんから痰に混じって出てくるがん細胞の有無を顕微鏡で観察します。



## ○乳がん検診

### ◆マンモグラフィと視触診

マンモグラフィとは乳房X線撮影の別名です。小さな石灰化のある乳がんの発見に適しています。検査では、乳房をできるだけ平らにして撮影するため、人によっては痛みを伴います。また、視触診ではしこりの有無を触診と視診で判断します。

## ○子宮がん検診

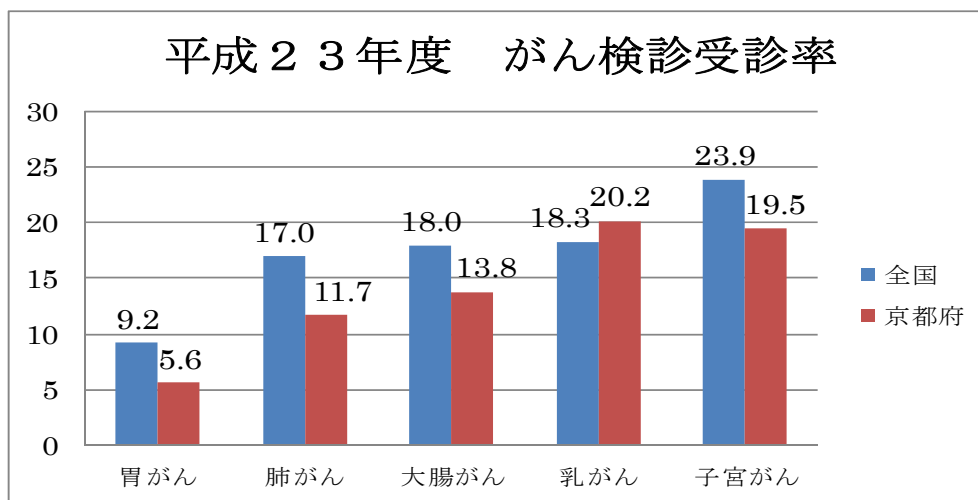
### ◆細胞診

子宮頸部の細胞を採り、細胞ががんであるか病理検査にて診断します。

生理中の場合は、十分な検査ができないことがあります。

## 京都府のがん検診受診率は？

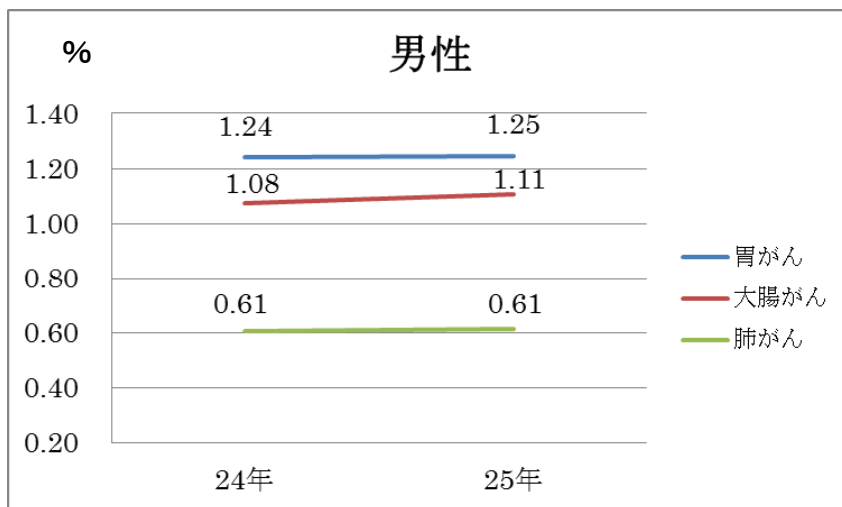
下図のとおり乳がんでは全国を上回っていますが、その他のがん検診の受診率は全国より低く、検診の対象年齢になっても受診されておられない方が多い状況です。



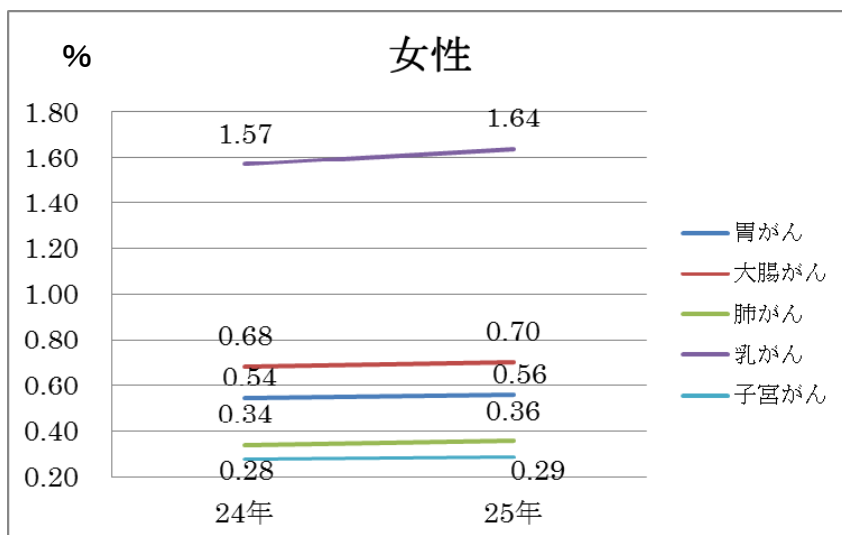
H23 地域保健・健康増進事業報告より作成

# 京都府のがん患者の状況は(国民健康保険加入者)?

平成 24 年と平成 25 年の患者数の割合を比べてみると・・・



◆男性では、大腸がんの割合が増加しており、女性よりがん患者の割合が多い状況です。



◆女性では、5つのがん全てで患者の割合が増加しており、特に乳がんの患者の割合が増加しています。

京都府国民健康保険団体連合会 医療費分析システムより作成

**「がん」から自分を守るため、検診を  
定期的に受けましょう！！**